

令和3年9月定例記者会見要旨(令和3年8月26日)

1. 坂出市立病院で発生したクラスターについて、現段階で感染経路をどのように想定しているかお聞きしたい。

このたび、坂出市立病院において患者3名、さらに職員3名が感染したことについて、ご心配とご不便を市民の皆さまにおかけしていることに対し、まずもってお詫び申し上げます。

現在、保健所で感染経路を調査中であるものの、病院でも面会の禁止など、できる限りの対策を取ってきており、感染経路を想定することは大変難しいと思っている。

今後、保健所の指導を仰ぎながら感染予防に努めてまいりたいと考えているが、市立病院には、これからも新型コロナウイルス感染症対策の最前線となって対応してもらわなければならない。職員にはますます負担をかけることになるが、全員一丸となって、この難局を乗り切ってもらいたい。

市民の皆さんに安心して通院、入院できるようにしてまいりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げたい。

—感染経路の特定は難しい？

入院した時点から2~3日後に発症する場合があります、また感染後の体内のウイルス量によっては検査結果が陰性となる可能性がある。どの時点で感染していたか、またそれが院内での感染なのかは、わかりかねるのが現実である。

—入院患者がすでに感染していて、病院内で感染が広がった可能性もある？

その可能性のほうが高いかもしれない。外部との接触については、看護師等の医療関係者はかなり注意している。そのような中で起こりうることというのは、なかなか想定しづらいことであると思っている。

—危機管理上の問題で、今後、感染が広がっていった際に、病棟閉鎖や閉院などを行う判断の目安となる数値はあるのか？また今後、設定する予定はあるか？

病院という場所でもあり、普段から感染の防止にはかなりの注意を払っている。感染者が発生した場合でも、該当する病室内で抑え込むような対応をしていくことは当初より心がけている。

ただし、感染経路は想定できないものである。また病院の性格上、特に坂出市立病院が感染症指定病院である以上、患者を取捨選択することはできないため、常に感染リスクにさらされており、スタッフは緊張感をもって対応している。

これまで一年以上にわたって新型コロナウイルス感染症の対応にあたってきており、この間、かなりのスキルアップをしていると認識している。スタッフの努力を信頼していると同時に、病院内でも危機管理の体制を整えている。

感染者拡大に伴い、事前に緊急時の対応マニュアルを策定するかということについては、坂出の医療だけの問題ではないと考えている。県下の中で3次医療をどうするのか、救急医療をどうするのかといったことを含めて、県全体の医療をどうしていくのか、限られた医療資源をどこに投入していくのかということを、総じて考えていかなければならない。基本的には県が中心になって計画を策定していくべきだと思っている。

我々としては、与えられた指示の中で、いかに坂出市立病院を医療資源として有効に使っていくかということを県と一緒に考えていく。広域的な患者の受け入れが求められる以上、坂出市立病院の医療を県全体の医療の中でどうやって使い切っていくかということになると思う。

この先、クラスターが発生しないように、いかにして感染拡大を防いでいくかに注力していかなければならない。